

1 題材名 民意を反映する決め方とは？

2 題材について

(1)【場面設定】:「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容

多数決という決め方は本当に人々の意思を反映する決め方なのだろうか。もっと良い方法がないのか、決め方の研究の歴史から問い直してみよう。

(2) 本題材を取り上げた経緯と意図

授業者は、これまで本研究会で、原発再稼働、沖縄の米軍基地移設問題、竹島領有問題などを取り上げて授業化してきた。子どもたちは、多面的な「判断の規準」で意思決定する学び方を身につけて「政治的リテラシー」を涵養しつつある。しかし、いくら子どもたちを市民として育てても、その意思を表明する選挙制度に問題があれば「政治的リテラシー」を涵養した意味が無くなる。これからの政治教育では「争点や問題ではなく、決め方を扱う」ことが重要(田村哲樹・2015)と言われるが、どうすればよいのか。「選挙制度はやはり無視できない影響を及ぼしている(加藤秀治郎・2003)」や、「結局のところ存在するのは民意というよりは集約ルールが与えた結果に過ぎない(坂井豊貴・2015)」という指摘などからも、現在の選挙制度を問い直し、もっと「民意を反映する決め方」を考えて、民主政治のあり方を考えたいと願って本題材をデザインする。特に小選挙区選挙の問題点として、現行の多数決の方法では大量の死票を生み、得票率と議席獲得率の不均衡を生じさせることが指摘される。そこで、多数決そのものを自明視せず、様々な決定方法の長所や短所を知った上で、改良の視点をもてるようにしたい。

(3) 本題材において育てたい「政治的リテラシー」(ループリックの最高基準点の姿を記載)

○社会的事象や時事問題の対立点、論点や、それらの背景となる基本的事実を理解する。	・小選挙区選挙の是非を巡る争点について、その問題点を指摘することができる。 ・特に、小選挙区制では、4割の得票率で8割の議席を獲得してしまうことや、異常に死票が多いことなどの問題点があることを指摘できる。
○社会的事象や時事問題の対立点、論点について、多面的(他者の視点)な見方で考える。	・小選挙区選挙では多数決と単記制を採って一人だけ当選者を決める。この方法の問題点について、ボルダやコンドルセのルール、パウロスの全員当選ルールから、より民意を反映しやすい方法を多面的に考えることができる。
○読みとった情報・知識を、自分の主張の根拠にする。	・多数決、単記制、ボルダやコンドルセのルール、パウロスのルールなどの具体例を検討して、それぞれの資料から、その方法の特徴を読み取り言語化できる。
○様々な立場の人々が幸せになれる条件を考えて決定する。	・様々な立場の人々の考えや意思を政治に反映させるための決め方について考えをもつことができる。

3 学習指導計画(5時間目/全7時間)

1~2時:最近2回の衆議院議員選挙の得票率と獲得議席率の結果の資料から、現在の選挙制度について気づいた問題点を指摘する。できたら、代替案を考える。

3~5時:子どもたちが気づいた問題点を克服する方法として先ず、パウロスの全員当選モデルを体験し、ボルダ、コンドルセなどのルールについて、長所や短所を考える(本時)。その上で、現在の小選挙区制度の問題点について改めて考え直してみる。

6~7時:今後の選挙制度を改善するとしたら、どのようにしたら良いのか、意見文を書き、読み合う。

4 本時について(全7時間)

(1) 本時のねらい

現行の小選挙区制の問題点を克服する方法としてボルダ、コンドルセなどのルールについて、長所や短所を考えて話しあうことが出来る。

(2) 予想される本時の展開

予想される子どもの活動	留意点
○課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ボルダ、コンドルセのルールの特徴を生かして、小選挙区制の問題点を克服できないだろうか。</div> ○ボルダルールの長所や短所について話し合う。 ○コンドルセのルールの特徴を生かして、小選挙区制の問題点を克服できないだろうか。	○死票が少ない、一人だけに決めないで投票できることに気づかせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと 小選挙区制の課題を克服するために、ボルダ、コンドルセルールなどの長・短所を考えることを通して、制度を改良する視点を考えることができたか。